

# 令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議 会議録(3日目)

(令和3年2月18日 午後1時00分)

●議長(森山木の実) 休憩を解き、会議を開きます。

通告の3、湊喜一議員。

- 1 ピロリ菌保菌の検査の助成について
- 2 コロナ感染症ワクチンの接種について

議席番号10番・湊喜一議員。

◆10番(湊喜一) 議席番号10番・湊喜一です。通告に従いまして2点の質問をさせていただきます。

まず最初に、ピロリ菌検査について提案をさせていただきます。世界保健機構(WHO)は、1994年にピロリ菌は胃がんの原因であると認定し、2014年には胃がん対策はピロリ菌除去に重点を置くべきであるとの発表を行っており、ピロリ菌除去による胃がんへの有効性については、今更説明する必要もなく当たり前の一般常識になろうとしています。北海道医療大学の浅香学長は、胃がんで命を落とすのはもったいないという時代に入ったと言われていました。胃がん予防のためにピロリ菌は、除去しましょうという運動を起こしていきたいと思っています。一般質問でも呼びかけたいと思い、今回の質問を思い立ちました。ピロリ菌の保菌の原因の大半は、過去に日本人が井戸水を飲んでいたことが原因だと言われていました。ピロリ菌検査をして除去することが、胃がんを減らす有効な対策となるのはまさに今であろうと思っています。私の体験ですが、55歳で町の助成があることで初めて人間ドッグの検査を受け、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の跡があると言われ、ピロリ菌の検査を進められましたが、ちょっと戸惑って逡巡(しゅんじゅん)しておりました。人間ドッグの検査だけは続けようとして以来、毎年ドッグの検査を受けておりますが、その次の年も違う所に胃潰瘍の後があると言われ、覚悟を決めピロリ菌の検査を受け、陽性と言いますか、ピロリ菌がいることが分かり、その後ピロリ菌除去の薬を処方され服用いたしました。後に再度の検査でピロリ菌の存在がなくなったことを確認しています。その後の人間ドッグにおいての胃カメラ検査では胃潰瘍は認められていません。よって胃潰瘍からの胃がんは発生しないと思っています。助成に掛かる費用と胃がん治療に掛かる医療費との費用対効果は、考えるべきであろうと思っています。保菌者が投薬によりピロリ菌を除去できれば胃がんリスクを抑えられる、また医療費も抑え、また入院治療で休業・休むことなく社会の生産性を落とすことも防げます。費用対効果は非常に大きいと考えます。今、町では人間ドッグの助成をしておりますが、その中にピロリ菌検査をいれるのも一案だと思います。検査自体は健康保険の対象でありますから、大きな金額にはならないと思います。そこで町長に見解をお伺います。

●議長(森山木の実) 横川町長。

■町長(横川正知) 湊議員さんの質問にお答えをさせていただきたいと思います。実は私も若干、若い時にピロリ菌の除去を行いました。今、ご質問の部分についてはですね、それぞれ大事なことであるなと思っております。一般的にピロリ菌の感染によってがんのリスクが高まるとも言われております。現在ピロリ菌の除菌、治療については議員がおっしゃるように保険適用となっております。自己負担もそれほど高くない金額で診察や検査ができると聞いています。ピロリ菌に感染すると、ほとんどの人に胃炎が起ると言われておりまして、内視鏡検査などのがん検診でピロリ菌が発覚する場合も多々あると聞いておりますし、健康な方でもですね、ピロリ菌の保有は結構な率でそれぞれ発症しないまでもあるんだというのを、私も何かでみたことがあります。町のがん検診では、厚生労働省が指針で定める市町村のがん検診の項目としまして、胃がんや子宮けいがん、肺がん、乳がん、大腸がん、それぞれについて助成をしているところでございます。胃がんにつきましては、バリウムになります。が検診者による胃検診、また今、お話にありましたようにですね、人間ドッグの補助メニューに胃カメラも含まれておりまして、それらの所でそれぞれ希望に応じて対応していただいているということでございます。したがって、今、全くそういうことに手立てをしていないということではなくてですね、やっている部分もあるわけですので、それぞれまたそういったことを十分に活用していただきながらですね、自分の健康管理についてはそれぞれの立場で対応していただき、少なくとも様々な定期検診等々の実施を町としてもお願いをして訳でありますので、そういったことも含めて有効な検診を受診され胃がんのみならず様々な病氣予防に対応していただければいいかなと思っているところでございます。改めてこのピロリ菌を取り上げてですね、現段階で町として補助対象にするという考えは今のところ持っていないということでございます。

●議長(森山木の実) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) はい、今はやるつもりはないと。以前私、肺炎球菌ワクチンの助成を何回もやってようやく助成金を入れて、町が1000円で受けられるようになった経過があります。その後、何年かして国のメニューになってしまっていて、今はすべての高齢者、5歳刻みで肺炎球菌ワクチンを打てることになりました。これも粘り強い行動で町には動いていただこうかなと思っております。予防注射というのは保険適用が効かないもので、かなりの費用負担になると思うんですが、ピロリ菌の検査、それと除去した保険適用が利くということで、そんな大きな金額ではない。それと助成をすることによって動機付けと言いますか、それならば検査してみようかという動きが起こってくると思います。その動機付けのためにも是非ともこの助成をして欲しいなと思っております。ちなみに病院事務長にお聞きしますが、今ピロリ菌検査と言うのはいくらぐらい掛かって、

## 令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議 会議録(3日目)

保険適用後の本人負担はどのくらいの金額になるのかちょっと教えていただきたいと思えます。

●議長(森山木の実) 外谷場病院事務長。

■病院事務長(外谷場佳子) はい、私の方からご説明をさせていただきたいと思えます。まず前提としまして保険適用ということでお話をさせていただきます。保険適用ということでもありますので、ご存知のように初診、例えば気持ちが悪いかドッグでカメラ検診で指摘を受けて診療に入った場合という前提でお話をさせていただきますが、一般的にカメラを飲んで、ウレアーゼ酵素という検査をさせていただくのですが、その場合1回目に保険適用前だと2万2000円ですので、3割の方であれば6600円、2割の方であれば4400円という形でのご本人負担になります。その後、今言ったピロリ菌が確認されてお薬を飲む、あるいはお薬を飲んだ後の再診料、その薬が効いているかのどうかの検査を踏まえすと、最終的に一連の治療で3割負担の方が約1万円、2割の方ですと7000円弱、1割の方だと3500円くらいというような形での金額想定になるかというふうに試算をしております。以上です。

●議長(森山木の実) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) はい、ありがとうございます。これ大体平均負担が3割という形で考えさせていただいて、6600円。これを1000円で受けられるとなると、それこそやってみようかなという気にならないでしょうか。人間ドッグを受けて胃カメラを飲んでその結果と言う形になると思うんですけども、私も最初人間ドッグで胃カメラを飲んで、その時は検査を受けませんでした。やはりなんとなく怖いと言いますか。その時に多分助成金があって1000円で受けられるなら迷わずやったと思えます。やはり5、6000円掛かると、確かその時にも値段を聞いたと思うんですけども、やはりちょっと逡巡する部分があります。その辺のところ、助成金がある、1000円で検査ができるというのは本当に動機付けになると思えます。高齢者のインフルエンザの予防注射も皆さん1000円でできる、これも保険適用外ですから、これ予防注射もなかなか打たない。高齢者でインフルエンザで死亡率が高いということで、1000円で注射を受けるということで、かなりの町民の方はインフルエンザの予防注射を受けておられると思えます。そういう意味でもやはり助成をすることによって、助成金を入れることによって、あの例えば1000円という話をしましたけれども、これがいくらかの金額を入れることによって胃がんの発生リスクをほぼほぼ押さえることができる。胃がんになってからでは、ものすごい医療費が掛かる、まして、それが命を落とすことが多いとなるとこの費用対効果というのは計り知れないものがあると思えます。再度、町長の見解を、前向きに検討をしていただくということの答えをいただきたいと思えますが、いかがでしょうか。

●議長(森山木の実) 横川町長。

■町長(横川正知) 前向きになるかはともかくとしてですね、費用対効果という話も今ありました。現実、そのどの程度のことが、いわゆるご指摘のピロリ菌が原因としてというふうに捉えられるのかどうなのか、その辺も含めてですね、調査と言う言い方もないですが事前の状況については、確認をさせてもらいたいと言うふうに思います。

●議長(森山木の実) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) はい、ピロリ菌というのは一番最初に言いましたけれどもWHOが、ピロリ菌は胃がんの原因であると認定しております。2014年に胃がん対策は、ピロリ菌除去に重点を置くべきであるとの発表を行っています。世界が認めていることでありますから、今後、更に研究をしていただくのは必要だと思いますけれども、一般常識であるとは思っておりますので、是非とも助成金を入れて信濃町から胃がんリスクをなくすとは言わないですが少なくしていき、信濃町の人達の健康を胃がんから健康を守るといふ施策を実行していただきたいなと思います。再度お願いいたします。

●議長(森山木の実) 横川町長。

■町長(横川正知) おっしゃるように世界保健機構(WHO)がそういう見解を示しているということでございます。これを受けて私ども一自治体として、さあそれじゃあやましようというようなものでもないだろうというふうに思います。そのことは前向きに捉える必要があるのかなというふうには思いますが、むしろこれは国としてですね、WHOのそういった示されたことに、どういう対応をするかということが重要になってくるのではないかとこのように思います。そのような動向も踏まえて町として、今後対応したいと思っております。

●議長(森山木の実) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) 今、政令指定都市がいくつあったか定かではないが、かなりの政令指定都市ではこのピロリ菌の検査の助成を行っております。地方都市が始めて、それが町村にまで助成が行き届くと国が動くようになってくると思います。肺炎球菌ワクチンもそのような過程を通して国が助成をするようになりました。ピロリ菌の検査も地方都市から動きが始まって、ようやく国が動くという、そういうパターンが往々として見られますので、是非とも小さな自治体からこういう動きを起こしていただきたいと思うので、今後前向きな検討をお願いしたいと思っております。

続きまして、コロナワクチンの接種についてですが、先ほど午前中に同僚議員がつぶさに聞かれまして、私のすることが半分以下に落ちてしまったので、再確認のつもりで

重複するかも分かりませんが。今コロナワクチンの接種、町民が非常に興味を持っており、この一般質問の再放送、これが町民に対するひとつの周知の方法でもあるとも考えておりますので、明快な答弁をお願いしたいと思っております。とりあえず政府の方針、これ遅れ遅れで出てきておりますけれども、ワクチン接種、密を避けて迅速に・適格に・安全に行う必要があると。それからこれは、前代未聞の一大事業であるということは各報道でも間違いのないことだと思っております。先ほど同僚議員が聞かなかったことのひとつに、密になるのを避けるのに待合室、順番に並んでいるところ、あと経過観察のところの寒さ、暑さ対策その辺のところの考えはあるのかどうか。それと優先順位は国の方で、あらあら決めておりますが、先ほど答弁で集落ごとというような予約の順番というようなことをおっしゃっておられましたけれども、それ以外にも勤務されている方は土日、または夜間の仕事が終わってからの接種、その辺の考え方はあるのかどうかお聞きします。

●議長(森山木の実) 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長(柄澤 豊) それでは湊議員さんのご質問にお答えしますが、3密の関係でございますけれども、接種会場につきましては、やはり3密を避けなければいけないということで広い場所を選定させていただくということで、今現状で考えているのが、古間の体育館と古間の地域交流施設になります。体育館の場合ですと入り口から入りまして、スペースをうちの方でもレイアウト、場所の確認をしまして、受付の場所、それから待ち合いの場所、問診の場所、接種する場所、それからその後証明書を発行しまして、しばらく副反応対策と言いますか見ている場所につきまして、密にならないように設定できるというふうに考えております。それから後半は古間の地域交流施設の2階に移動するのですが、部屋が3つ、4つございますので、部屋ごとに待ち合い場所、接種場所とスペースが確保できる予定でございます。それから寒さ対策でございますけれども、4月から始まると4月、5月頃はまだ寒い時期でございますので、暖房設備等々も考えていきたいというふうに思っております。それから接種順位の関係でございますけれども、これは国の方針と言いますか指針で示されておまして、まず医療従事者、高齢者それから持病をお持ちの方などになって、それ以外の方というふうになってございます。接種につきましては、今、平日の午後を考えると100人から120人くらいを接種していきますと、数か月で接種していかれるという状況で考えてございます。どうしても信越病院の医師も看護師も当然スタッフは通常業務をやりながらの接種になりますので、それをでは土日ですとか夜間ですとかとなると、やはりスタッフがかなり厳しいという状況になりますので、その辺は必要に応じて、考えないわけではないですが、ご理解をいただきたいというふうに思います。

●議長(森山木の実) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) はい、是非とも寒さ対策、これで7月8月にずれ込んでくると思うと、暑さ対策もしっかり考慮していただきたいと思っております。あとですね、土日それから夕方、夜間は今のところ考えてはおられないということですが、やはり住民サービスと言いますか、その利便性を図っていくことになると思うと、土日の何時間はやるべきだとは思いますがね、やはり仕事をしておられる方は土日しか時間が空かない、もしくは夕方遅くにしか時間が空かないという方がやはりおられると思います。その辺のところも是非、頭に入れておいていただき、土日、夜間いずれかを1週間に1回くらいは入れていくべきだと私は考えております。あと、そのクーポンと言いますか、予約券と言いますか、これは国の方で準備するようにも考えられておるみたいですが、このクーポンをもらってから予約ですよ、コールセンターという国の指針では、そういう形で発表がありますけれどもここが一番大事じゃないかと私は思っております。先ほど課長の方は、外注でされるようなお話もありました。ここで集落ごとに1日100人程度の予定日を入れていくんでしょうが、まず最初にコールセンターで振り分け、ここでしっかりした対応を取らないと、住民とすれば非常に混乱すると思われれます。このコールセンターの在り方、国の方は1つロボットコールセンターというのを提唱しております。これは民間の会社なんですけれども、電話で色々な対応をしております。資料がありますので、また後程しっかり勉強していただければ、研究していただければいいと思うんですが、このコールセンターの在り方をどのように今後されていくか、ある程度考えておられると思うので、分かる範囲内でお答えいただきたいと思っております。

●議長(森山木の実) 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長(柄澤 豊) コールセンターにつきましては、今考えておりますのが、役場の会議室を1室、そこへ電話回線ですとかインターネット回線を引き込みまして、そちらの方でコールセンターを設置します。併せてそこに予約を受け付ける職員も置いて、コールセンターと併せて同時に運営してまいりたいという予定でございます。そのような中でコールセンターにつきましては、外注、議員さんがおっしゃるとおり業務委託で予定してございます。なかなかそこに会計年度職員といいますか、臨時的な職員を置いてすべて対応できるかということが難しいものですから、ある程度知識を持ったその業者をお願いをして相談対応に応じるという考えでございます。先ほどちょっと私、答弁漏れをしていたかも知れないのですが、集落ごとの考え方なんです、基本的には会場は体育館と古間の地域交流施設で行う予定でありますが、予約につきましては、全町の皆さんから予約を受け付けるのですが、ただどうしても自力で、特に高齢者の方で自力で来られない、それから家族も遠くにいるなどで送迎が難しいという方については地域指定、日付指定をしてそれで公共交通になるか交通事業者になるか、それも今検討中でありまして、交通事業者の方をお願いをして、それで巡回して連れてきてもらって接種していただくという方法を今模索しているというか検討しております。決まりましたらまたその辺は十二分に案内をさせていただいて進めてまいりたい

というふうに考えてございます。

●議長(森山木の実) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) はい、集落ごとの接種、これは周知が非常に大事だと思います。例えば「山桑地区の65歳以上の方は4月15日の午後、バスが何時に来ますのでそれにお乗りください」というような形で、これは再三その地区、全町的にそれを流す必要はあると思うんですけども、そこでコールセンターでしっかり、その辺の予約を受け付ける、予約でまあ1日100人として、そこで60数人だとして40人ぐらい余ってしまうとすれば、そこをよその地区からコールセンターで受け付けている、やりくりをうまくやっていく必要はあると思うんですけども、そういう意味でコールセンターは大事だと私は認識しているんですが、その辺のあんばいと言いますか、うまく調整をして効率よくワクチン接種が行われるような方策を講じていただきたい、やはりそこがコールセンターの力量の部分だと思います。それと私、先程紹介させていただきましたロボットコールセンター、これは民間の会社の名前はちょっと言えませんが、電話での対応であります。その会社がものすごい量の回線を持っておりまして、最大で1000チャンネルの回線を用意することができる、1日500万件の接続が可能である、信濃町なら1日で終わってしまうと。しかもロボットで音声で案内をして予約を取っていく、そんな手立てがあるみたいですが、その音声も例えばワクチン担当大臣の河野太郎さんの声を使うこともできる、例えば小池都知事の声を使うこともできる、そういうようなシステムのようなのです。ですから、例えばその案内を町長が録音していただいて、その声を使うこともできる。例えば県知事、皆さんになじみのある声の阿部守一長野県知事の声をお借りして、それを告知案内にその声を使うこともできるようであります。その辺のところ、やはりなじみのある声で案内されると住民の方も安心していただけたと思いますのでね、そういうこと、これまあこのメーカーの宣伝をするわけではないんですけども、そういうシステムがあるぞということをまず研究をしていただきたい。その辺のコールセンターの大事さというのは、そういう所だと思いますのでね、是非、一考をお願いしたいと思います。それと、あと福祉施設、信濃町ですとおらが庵、それとかグループホームなんかでサテライトでの集団接種といいますか、そんなに大きな塊ではないと思うんですけども、そういう動くのも大変な方、しかもその施設で固まっておられる方のサテライトの接種というのは日にちを決めてやるべきだと思うんですが、この辺のところどういう形で考えておられるのかお聞きしておきます。

●議長(森山木の実) 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長(柄澤 豊) はい、介護施設等々、グループホームも含めてですけども、当町にありますおらが庵さんにつきましては当信越病院の医師が医療従事者になっておりますので、そちらの方は申請をしていただいて、その施設で病院の先生に打って

いただきたいと考えてございます。その際に必要に応じて職員も打てるシステムといたしますか、そういうことも可能となっておりますので、それも含めて申請をしていただいて、できるだけ柔軟に対応してまいりたいというふうに思っております。グループホームにつきましては、その施設と相談をさせていただいて、その施設に伺って打つのか、その施設の方に、それほど人数は多くないので接種会場に予約をして連れてきていただいて打つのかというのは、また調整をしたいというふうに思っております。

●議長(森山木の実) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) はい、その辺のところは臨機応変にお願いしたいと思えます。あと在宅介護でどうしても行くのは大変だという所は是非とも訪問看護、そこで往診という形で医師が出向いていただいて、ワクチン接種していただいて、その辺はもう臨機応変でできる限り早い段階での対応をお願いしたいと思えます。それと、言えば集団接種と言いますか、古間の体育館と交流施設を使う、これ非常に川崎市のシュミレーションを見た限りではかなりの人数が、案内する人から特に医療関係者はたくさん人数いると思うのですが、それ以外の職員もたくさんいると思うんです。この辺のところ、ボランティアを募って活用するという考え方はあるでしょうか。

●議長(森山木の実) 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長(柄澤 豊) 現在、ボランティアという考えはございませんでしたけれども、また議員さんの意見も参考にさせていただいて検討したいと思えますが、現在の接種に向けて人員確保をしたり、そういったところで私ども担当課においても一生懸命頑張っているところでございます。できるだけ人数を集めてそれで接種していきたいというふうに考えてございます。必要に応じてですけれども、課を越えて住民福祉課だけではなく、役場の職員にも手伝っていただいて接種をしてまいるといふこともあり得ますので、そのようなことで今、調整を図っているところでございます。

●議長(森山木の実) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) ボランティア、実は議員もボランティアに手を挙げようと思っているんですけども。実際ワクチン接種が始まるころは、この議会も代変わりをしております。第18代議会になっております。住民に対するお披露目も含めまして是非とも議員諸氏の方々にボランティアで、例えば経過観察のところに、お話し相手と言うのもまあ密にならない程度の15分から30分間にちょこちょここと退屈しないように話し相手になるとか、もしくは医療に全然関係のない案内のボランティアなら我々議員でもできるように思えますのでね、是非ともボランティアが必要な時は議員にも声をかけて議員諸氏の方も是非とも手を挙げていただきたいなと思っております。それから国の方は矢



## 令和3年第418回信濃町議会定例会2月第2回会議 会議録(3日目)

継ぎ早に色々な指針が出てきて、昨日、自治体向けの説明会の第3回目が行われております。それで新しい情報で、信濃町でこれはしたいというようなことがあったかどうか、まだ出たばかりの部分があるんですけども、その辺はアンテナを高くされていると思いますので、これはと思う施策、利用できるなという施策があれば教えていただきたいと思います。

●議長（森山木の実） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 2月17日付けの自治体説明会の資料が届いています。うちの保健予防係の係長と保健師の方で、ウェブ会議で内容を聞いてございます。ちょっと私の方は議会对応中なものですから、読んでいる時間がなくてこれから熟読をいたしますのでお許しをいただきたいと思います。

●議長（森山木の実） 湊議員。

◆10番（湊 喜一） 是非ともね、国は二転三転して、新しいことを言うてくるので非常に大変な部分があるとは思いますが、ちょっと右往左往する部分がありますので、しっかり対策を考えて、臨機応変に対応できるように新しい情報を私の方も国の方と近いアンテナがいっぱいありますので、新しい情報はすべからく行政の方にお知らせしたいと思っておりますので、臨機応変の対応をして、一番大事なのはやはり予約のコールセンター、その辺のところだと思いますし、一番大切なのは住民に対する周知ですね、しっかりとコロナワクチンの安全性の周知、それと接種の方法の周知、その辺をしっかりとやっていただき、全町の皆さんがワクチン接種できるような体制を作っていただくことを望みまして、私の一般質問と致します。

●議長（森山木の実） 以上で、湊喜一議員の一般質問を終わります。この際1時55分まで休憩といたします。

(午後1時44分 終了)